



嬉 望

兵教大 学校経営コース 大学院生編集部

● 教員紹介と抱負

教員名	職	担当領域	抱負・指導方針
堀内 孜	教授(新任)	教育施策立案・評価、教育行財政、教育法規、公教育経営	専門は公教育経営学。公教育を「国家による国民形成」と捉え、その政策、立法、制度、行財政、学校の内部経営を包摂する国民社会の教育の組織化過程に関する研究を「公教育経営学」とし、その全体構造と特質の分析的解明を研究しています。具体的には教育行政と教育機関—学校の組織経営の関係に焦点を当て、「教育行政と学校経営の関係構造」「学校の自律性の確立構造」を研究課題としています。
廣岡 徹	教授	危機管理、教育法規、学校インターンシップ指導	県立教育研修所における教職員研修、県教委における社会教育、文化会館における生涯学習、教育事務所における義務教育、高等学校長としての学校経営等、多様な勤務による経験を基に、現職教員の職能開発に生かしていく所存です。
浅野良一	教授	学校経営、学校評価、教職員職能開発	将来、学校経営や教育行政に携わる学生に対して、マネジメントに関する理論や実践的な方法論の提供に努めます。そして、現実の学校や教育委員会を教材として、共に課題を発見し、その改善・改革方策を検討します。この問題解決プロセス(ソリューション)の習得こそが、理論と実践の融合を図り、学校経営や教育行政での実践的指導力を獲得する道であると考えています。
日渡 円	教授(新任)	教育行財政、教育委員会インターンシップ指導	これまで、地方教育行政の実務やマネジメントに携わってきました。その経験を生かして、教育の各種施策の立案・実施・評価のあり方や教育委員会のマネジメント、そして、地域と協働する学校経営について実践的な研究を進めます。
大野裕己	准教授	開かれた学校づくり、カリキュラムマネジメント、学校経営	本学での教育・研究では、教職を担う学生が、学校組織における課題の所在を読み解き最善の解決策を導き出す、高度な問題解決能力を育成できるような教育活動を展開したい。そのために、平素の研究活動(学校経営改革の理論的・実証的研究)や、教育委員会・学校との共同研究を含む積極的な関係づくりにも力を注ぎたいと考えています。

● 2年次で行われるインターンシップについて

本大学院学校経営コースでは、将来の学校経営や教育行政を高度に担う人材を育てています。また教職大学院は理論と実践の融合の視点から、ハイレベルな理論を扱う講義に加えて教育現場の実践を意識した多くの実習の機会を設けています。学校経営コースでは2年次(サテライト除く)に8月中旬(または下旬)から最低8週間のインターンシップを実施しています。それぞれの大学院生が派遣元の学校や教育委員会に戻り、シャドウイングや様々な調査を行ったりするものです。大学院生はインターンシップに向けて、優れた学校や教育委員会の事例を1年次に研究するなど、多くの準備をしています。そしてインターンシップでの学びをもとに、通常の大学院の修士論文にあたる学校改善プラン(教育行政

改善プラン)を作成します。従ってこのインターンシップは院生にとって重要なものです。もちろん、経験豊富な教員ばかりなので、単に院生が学ぶだけでなく、受け入れていただく学校・教育委員会にも貢献します。ご協力のほど、よろしく申し上げます。

● 2010年3月修了生の進路

入学前(2008年3月)	修了後(2011年4月)
県立高校主幹教諭	別の高等学校教頭
県立高校主幹教諭	別の高等学校主幹教諭
県立高校主幹教諭	別の高等学校主幹教諭
県立高校教諭	現任校主幹教諭
県立特別支援学校教諭	現任校主幹教諭
県立高校教諭	県教育委員会指導主事
県教育委員会管理主事	県教育委員会主査
教育委員会指導主事	県教育センター指導主事
中学校教諭	現任校教諭
中学校教頭	別の中学校校長
小学校教頭	市教育委員会参事
小学校教諭	現任校教諭
小学校教頭	別の小学校教頭
小学校教諭	現任校教諭